

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年12月8日

公表: 令和5年3月10日

事業所名 ポカラポットふじしま

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いえない (%)	いいえ (%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100				
	2	職員の配置数は適切である	80	20			基準に沿った職員配置を行っているが、より質の高い運営のために、社内他事業所のスタッフ配置や交流を促進していく
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	40	60		玄関の段差以外はワンフロアになっている。玄関には手すりを設置し、つまづきや転倒の注意喚起の声かけを行っている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	40	40	20	毎月の事業所ミーティングで、業務改善に関する話し合いの時間を設けている	業務平準化を促進していくことで、スタッフの意識とスキルの向上につなげていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80	20		毎年アンケートを実施し、結果はHPで公表している。事業所ごとに結果に対する検討会(分析・対策)を行っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40		60	社内の第三者評価調査者資格をもつスタッフがチェックを行っている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80	20		毎月全体(全事業所)ミーティング・勉強会を実施している	来年度のミーティング・勉強会のプログラム内容の企画検討の際に、スタッフの意見も広く取り入れていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80	20		支援管理システム(HUG)に準じて、アセスメントを実施している	日々の記録をどう評価し、子どもの行動や状態を見立てるのか、今後もより有効な会議のあり方を模索し、改善を重ねたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80	20		S-M社会生活機能検査を実施している。WISC等の検査結果も保護者の同意を得て参考にしている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80	20		子どもの負担・疲れや季節・イベント、時間の長短に合わせた活動内容を工夫している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80	20		業務連絡や送迎確認などとともに、当日利用する子どもの支援計画のポイントを全員で確認している。共有の時短・効率化を図るため、計画のポイントをまとめたファイルを作成している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80		20	サービス後のミーティングも決まった流れに沿って行っている。業務連絡、ヒヤリハット、活動の流れ、個別の様子について、振り返っている	パートスタッフなど、送迎終わりのサービス後ミーティングに参加しないスタッフに対しても、引き続き翌日のサービス前ミーティングで必要な情報の共有を図っていく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100					

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40	60		児童発達支援管理責任者もしくは主任保育士が出席している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20	80			(現時点では該当ケースがない)
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40	60		成育歴はアセスシートや面談、相談支援員より確認を行っているが、就学前の事業所との直接のやりとりはない	市内の連携体制構築に努めていきたい。保護者を通じて、自分たちから積極的に関わりをつくっていくという姿勢に努めたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20	80			(現時点では該当ケースがない)
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60	40		可能な限り勤務を調整し、今年度も複数の研修にスタッフを派遣した	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	40	20	40	地域の公園や公共施設において、様々な子どもと場所や活動を共有する機会を設けている	交流を目的とした場を意図的に設定してはいないが、今後も積極的に地域の中で社会経験を積み重ねられるよう取り組んでいく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20	80			(今年度は協議会に出席する担当年度ではない)
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100				
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	40	60			プログラムとしてのペアレントトレーニングについて、スタッフのスキルアップのための研修機会をもうけていきたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80	20		電話、面談、LINEなど、様々な方法でタイムリーに相談を受け付ける体制を整えている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60	40		保護者が主体となって運営する組織はないが、保護者同士の連携を目的とする、勉強会やサロンを開催している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80	20		今年度は「苦情」として処理する事案はなかった。苦情対応の窓口、フローチャートを設けている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60	40		日常の活動内容はHUGシステムでいつでも保護者が自分の携帯やPCで閲覧できる。また活動中の画像も毎月個別に送信している	今後インスタ等のSNSの活用を検討している
	35	個人情報に十分注意している	100				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20	80		市の福祉事業者による夏祭りには、オンラインや後方支援という形で携わった	コロナ情勢により、外部との交流には制限を設けたり慎重を期してきたが、今後はどのような地域交流の機会があるかをSぐっていきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80		20	LINEやHPにおいて周知している。	年度はじめなどに、再周知を行うことを検討する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80		20	虐待防止に関する全体研修を実施している。全スタッフに年4回の虐待防止セルフチェックを実施している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	20	80		今年度より虐待防止委員会を開催しており、委員会において身体拘束に関する議論を進めている	事業所では身体拘束を行わない基本方針を固めている。身体拘束となりえる行動や対応の線引きを引き続き精査するとともに、不適切な対応を引き起こす療育環境の点検にも取り組んでいきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80	20		HUGでの表示、サービス前の打ち合わせ、アレルギーカードの準備、LINE共有と複数の方法を用いることで、エラーを予防し確実な対応に努めている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100				